

JACCRO 短期海外派遣 学会参加報告 第 45 回 米国臨床腫瘍学会 (ASCO 2009)

広島大学病院 第二外科
田邊 和照

2009 年 5 月 28 日～6 月 3 日で ASCO 2009 に参加させていただきました。ちょうど新型インフルエンザの影響で、当院でも海外出張の可否が問題となっておりましたが幸いにも許可となり行くことが可能となりました。

学会場では消毒用のアルコールの配布がある以外は特にインフルエンザの影響はないようでありましたが、例年と比べてアジアの方、特に日本人の参加者は少ないように感じました。

胃領域での今回の目玉は TOGA study の結果でありましたが、非常に多くの聴衆がありました。結果についても clear な結果が得られそれに対する質問なども多く実際にその場で結果を含めて雰囲気も感じられ有用だったと思います。Flags 試験の副次解析およびサブセット解析の結果についても、どのような反応があるのか興味深く思っておりましたが、あまりつまこんだ質問はなく、primary endpoint が得られなかった試験なのでやはり欧米では受け入れ難いのかと思われました。ただ以前より S1 自体の認知度は上がっている感じでありました。

その他、ポスター発表では 2nd line 化学療法についても少しずつではありますが胃癌領域でも evidence が始まっていますし、他癌腫などでは日本で思っていた以上に分子標的治療の勢いのすごさに驚きました。胃癌領域でも Herceptin を含め治療の選択肢が広がるよう日本を中心にアジアから evidence を発信できればと思いました。

今回は、いろんな意味で印象に残る学会参加となりました。ありがとうございます。